

神奈川県支部だより

宍戸寛治

1 神奈川県透析医会設立の経緯

日本透析医会は1987年に各都道府県の透析医会が参集して結成されましたが、東京、神奈川を含む一部の都県には支部がなく、透析医会の課題となっていました。神奈川県の場合は、日本透析医会設立時には、神奈川県医師会の部会である神奈川県透析施設連絡協議会がすでにあり、透析医会が設立されなかったようです。平成27年に秋澤忠男先生（昭和大学客員教授）が会長、私が常務理事（平成29年より専務理事）に就任し、神奈川県支部である神奈川県透析医会を設立することにしました。

平成28年より設立準備を開始し、11月にエイズ予防財団との共催による講演会「HIV感染症の現状・予後の長期化と罹患者数増加の現実」のさいに、神奈川県透析医会設立準備会を開催し、設立を宣言しました。平成29年11月には「透析医療災害対策と透析医会の役割」をテーマに第1回総会を開催し、192名の参加者がありました。第1回総会時に神奈川県透析医会会則を定め、会員は神奈川県に居住、あるいは透析医療に従事する医師とし、日本透析医会や医師会員に限定せず、広く呼び掛けることにしました。理事、監事などの役員は原則として日本透析医会会員としています。設立時の役員は表1のようになっています。

表1 設立時役員

会長	: 宍戸寛治
理事	: 深川雅史（東海大学） 山本裕康（厚木市立病院） 平和伸仁（横浜市大） 中西太一（久里浜クリニック） 前田国見（前田記念武蔵小杉クリニック） 前波輝彦（あさおクリニック）
監事	: 衣笠えり子（昭和大学）
顧問	: 川口良人 酒井 糺 斎藤 明 櫻井健治 千葉哲男 秋澤忠男

（敬称略）

2 災害対策

平成 30 年 11 月の第 2 回総会では「災害時の透析医療継続を規定するリスク管理」をテーマに開催し、252 名の参加がありました。そのさい、神奈川県内各地区の災害対策の進捗状況を報告して頂きましたが、川崎市、相模原市、横須賀市で遅れているようでした。そこで、私の地元川崎市では、川崎市透析災害対策協議会を平成 30 年 4 月に設立し、市内の全 37 施設が参加して災害対策を進めているところです。行政にも積極的に参画していただき、平成 31 年には市から補助金が支給され、さらに全 37 施設に MCA 無線が配備されました。

このように、各地区での災害対策を進めるとともに、神奈川県全体での実効性のある組織の構築が必要と思われ、神奈川県透析災害対策協議会（仮称）の設立を進めているところです。透析医会を始め、神奈川県透析施設連絡協議会、神奈川県臨床工学技士会、神奈川県腎不全看護研究会の 4 団体を発起人として、行政、透析関連企業にも参画していただき、県内全 270 施設が参画する組織を目指して進めていきたいと思えます。令和元年 11 月の第 3 回総会時に設立準備会を開催する予定です。そのさい、神奈川県 of 翌年に設立したにもかかわらず災害対策を強力に推進した東京都透析医会の菊地勘先生より「東京都における災害ネットワーク構築とブロック化による災害対策」と題して基調講演していただきます。また、現在大きな問題となっている「透析排水管理」についても私が講演する予定です。

神奈川県透析医会は設立後 3 年の未熟な組織ですが、先達の各都道府県透析医会に追いつけるように積極的に活動を展開していきたいと思えます。皆様、ご指導よろしくお願ひ申し上げます。